

## 平成29年白老町議会総務文教常任委員会会議録

平成29年2月6日（月曜日）

開 会 午前 9時28分

閉 会 午後 2時10分

---

### ○会議に付した事件

所管事務調査

1. 学校教育施設と環境整備について
- 

### ○出席議員（7名）

委員長	小西秀延君	副委員長	及川保君
委員	大淵紀夫君	委員	吉田和子君
委員	吉谷一孝君	委員	前田博之君
委員	西田祐子君		

---

### ○欠席議員（なし）

---

### ○説明のため出席した者の職氏名

学校教育課長	岩本寿彦君
学校教育課指導主幹	井内宏磨君
学校教育課主幹	藤澤文一君
学校教育課主査	小山内淳君

---

### ○職務のため出席した事務局職員

事務局長	南光男君
書記	葉廣照美君

---

## ◎開会の宣告

○委員長（小西秀延君） ただいまより総務文教常任委員会を開会したいと思います。

（午前9時28分）

---

○委員長（小西秀延君） 調査事項が「学校教育施設と環境整備」についてということでございます。

まず最初にスケジュールについて、局長からまとめて報告していただきます。

南事務局長。

○事務局長（南 光男君） 資料1ということで、今回は現地調査もあるものですから、フォルダー化させていただいておりますので、各学校行ったときのメモとかができるような形で整理させていただきます。

それで日程なのですが、きょう2月6日教育委員会のほうから調査項目について説明を受けた後、きょうは竹浦小学校、虎杖小学校、白翔中学校ということで、時間帯については記載のとおりでございます。昼食は池田で予約しておりますので、各自、注文していただければと思っております。その後、継続して2月9日に現地調査ということで白老小学校、萩野小学校、白老中学校ということになっておりまして、時間的には記載のとおりです。総務文教常任委員会にはちょっと関係ないのですが、9日の日に委員会協議会、合祀墓地の設置の関係で説明がありますので、一応予定に入れております。

15日につきましては第1委員会室で教育委員さんとの意見交換ということで1時間程度予定しております。そのあと、まとめということと、また常任委員会とはちょっと別なのですが、総務文教の分科会として白老町婦人団体連絡協議会との懇談ということで1時半に予定しております。

○委員長（小西秀延君） スケジュール等についてご質問ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） ないようでございますので、それでは続きまして担当課より調査事項「学校教育施設と環境整備」についてご説明を願いたいと思います。

岩本学校教育課長。

○学校教育課長（岩本寿彦君） おはようございます。本日それと9日に所管事務調査ということで、学校のほうの視察をしていただけるということで、学校教育課のほうから事前にお手元にあります資料に基づきまして、全体の概要のほうを説明させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

それではまず1ページをお開きください。1番、白老町立小中学校の概要についてということで、町内の小中学校につきましては、児童生徒数の減少がございまして、平成25年4月に3中学校、萩野中学校、竹浦中学校、虎杖中学校を統合しまして白翔中学校としております。それと今年度、昨年平成28年4月には3小学校、社台小学校、緑丘小学校それと白老小学校を統合して白老小学校として再編をし、現在は小学校が4校、中学校2校という状況になっております。各学校の教職員それと児童生徒数、学級数の状況については、下の表のとおりでございますが、まず（1）の教職員

の状況でございます。白老小学校につきましては、教頭、校長がそれぞれ1名、それに教諭が27名、そのうち4名が期限つき教員ということになっております。それと養護教諭それと事務官を入れまして、白老小学校では合計31名の教職員ということになってございます。それと萩野小学校につきましては、校長、教頭のほか一般教諭が14名、そのうち1名が期限つき教員となっております。それと養護教諭、事務官を入れまして合計18名という構成になっております。それと竹浦小学校でございますが、校長、教頭のほか一般教諭が7名、そのうち期限つき教諭が2名、それと養護教諭それと事務官、合わせて11名という状況でございます。それと虎杖小学校でございますが、同じく校長、教頭のほか一般教諭が8名、それと養護教諭、事務官を含めまして12名ということになってございます。それと白老中学校でございますが、校長、教頭のほか一般教諭が18名、それと養護教諭、事務官合わせまして22名。それと白翔中学校が、校長、教頭のほか一般教諭が13名、それと養護教諭が1名おりますが、この1名につきましては現在、期限つきの養護教諭となっております。それと事務官1名を含めまして合計17名ということになってございます。それで全体を申し上げますと校長が6名、教頭が6名、一般教諭が87名、うち7名が期限つきの教諭、それと養護教員につきましては6名のうち期限つきが1名、それと事務官6名の合計111名という教職員の状況となっております。

続きまして学校の児童生徒数と学級数の状況でございます。白老小学校がまず1年生から6年生までの通常学級の児童生徒数につきましては323名、学級数が12学級、それと特別支援学級のほうなのですが、小学校1年生から6年生までの特別支援学級に所属している児童が合計21名、学級数でいきますと6学級という状況でございます。それと萩野小学校でございますが、通常学級の児童が146名、学級数が6名となっております。それと特別支援学級のほうは合計8名、学級数で申し上げますと5学級という状況でございます。それと竹浦小学校でございますが、通常学級の児童が49名、学級数が5学級、それと特別支援学級のほうが2名、学級数も2学級という状況です。それと虎杖小学校でございますが、通常学級の児童が45名、学級数が4学級、特別支援学級のほうが児童4名、学級数で申し上げますと3学級という状況になってございます。それと白老中学校のほうでございますが、通常学級の生徒が合計209名、学級数で申し上げますと6学級、それと特別支援学級のほうが生徒数13名、学級数で申し上げますと現在、5学級という状況になってございます。それと白翔中学校でございますが、通常学級の生徒数が148名、学級数が6学級、特別支援学級のほうが生徒数3名、学級数が3学級となっております。それで小中学校合わせて合計が、大変申し訳ありません、通常学級の合計数が357名とありますけれども、920名で訂正をお願いいたします。学級数が通常学級が39学級、それと特別支援学級のほうが小中学校合わせて合計、こちらのほうも訂正をお願いいたします。合計51名、学級数が24学級となっております。特別支援学級のほうにつきましては、また後ほど詳細ご説明させていただきたいと思っております。

続きまして、2ページをお開きください。小中学校の耐震化の進捗状況についてでございますが、耐震化につきましては、本町の場合は計画的に現在耐震化を進めております。耐震化工事の実施状況というのは下の表のとおりでございますが、まず白老小学校につきましては、平成26年度に完了済み、これにつきましては旧緑丘小学校の校舎のほうであります。それと萩野小学校につきましては、平成30年度に工事を実施して完了したいという予定でおります。それと竹浦小学校につきまし

ては、今年度完了済みということで、校舎につきましては旧竹浦中学校のほうでございます。それと虎杖小学校につきましては、平成22年度に完了済み。それと白老中学校につきましては、平成27年度に完了済みと。それと白翔中学校につきましては、平成22年度に完了済みとなっております。現在の本町の耐震化率を申し上げますと95%、全道平均が92.2、全国平均92.7ということで、全道、全国平均は既に上回っております。それと平成30年度に萩野小学校の耐震化工事を実施した場合、一応これをもちまして100%になるというような予定で見込んでおります。

続きまして3番目です。教育用資材等の利活用状況についてということで、教育用資機材につきましては、情報通信技術の高度化、それと全国的には「ICT教育」が推進されております。本町の教育現場のほうでも、大変財政状況が厳しいながら、段階的にICT機器の導入を進めてきております。毎年度の予算の範囲内で購入を進めておりますが、特に近年、学校側から電子黒板あるいはテレビモニター、実物投影機といった視覚に訴える資器材の購入要望が多くなってきておりました。これにつきましては、児童生徒の学習意欲、思考力、判断力の向上といったものが期待されているところでございます。それと今後の課題といたしましては、OSのサポート期限の関係から、各学校のパソコン教室のパソコンの更新というものが必要でございます。これにつきましては、更新が早期にできるよう財政課とも協議しながら、教育委員会として早く更新ができるように努めてまいりたいという考えでございます。それと主なICT機器の導入状況、それと今年度の教育備品の購入実績というのは3ページのほうに記載をしております。まず各学校のICT機器の整備状況につきましては、小中学校合わせてパソコン教室のパソコンですけれども、全部で181台設置をしております。それと電子黒板につきましては各校それぞれ全部で10台を配置をしております。それとテレビモニターにつきましては全部で33台となっております。それと実物投影機でございますが、1カ所訂正をお願いいたします、まず白老中学校の実物投影機ゼロ台となっておりますが、ここが1台でございます。合計で実物投影機につきましては23台の配置状況ということでございます。それと今年度の各学校の教育備品の購入状況につきましては記載のとおりでございますが、それぞれ各学校のほうから要望のあった備品を、これ施設管理備品と消耗品を除いたものでございますが、この記載のようなものを整備をしております。購入実績につきましては合計金額で申し上げますと134万5,572円というような状況であります。

続きまして4ページをお開きください。特別支援教育の状況についてでございます。特別支援教育につきましては、学校教育法施行令の一部改正に伴いまして、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための「特別支援教育の推進」といったものが強化されてまいりました。本町におきましては、これらを踏まえまして、就学先の決定について本人と保護者の意見を最大限に尊重いたしまして、その子に合った教育的ニーズ、あるいは必要な支援といったものを保護者本人と合意形成を行いまして、特別支援教育といったものを進めております。それで下のほうにフロー図がございますが、まず就学決定までの流れということで、まず流れとしてはこういう形になるのですけれども、乳幼児期から基本的に始まります。本町の場合は健康福祉課のほうの乳児健診等で課題のある子がいれば、まず子ども発達支援センターのほうに情報を提供し、そちらのほうでいろんな措置を対応いたしまして、そこで課題がないお子さんは当然、保育園あるいは幼稚園のほうに行きます。それを踏まえまして小学校のほうに入学ということになりますけれども、その中で教

育支援委員会というものを教育委員会のほうで設置しております。構成につきましては各学校の担当教諭、それと幼稚園、保育園の保育士あるいは幼稚園教諭、それと子ども発達支援センターの職員、それと健康福祉課の保健師も入っていますけれども、そういったそれぞれの専門家の方々によりまして、課題のあるお子さん、あるいは既に入学しているのですが、ちょっと通常学級では厳しいなというような児童生徒がいれば、こちらの教育支援委員会のほうで障がいの状態ですとか本人、保護者の意見を事前に把握をし、そして専門家の意見なんかもあればそういったものも踏まえまして、教育支援委員会の中でその子に合った教育的ニーズといったものを総合的に判断して、毎年、その子が例えばこの子は通常学級にいる、あるいはこれから入学してくるにあたって、例えばこの子は情緒がちょっと課題があるので情緒の支援学級がいいのではないかと、そういったものを最終的に答申をまとめて教育委員会のほうに答申いただきまして、そのあと教育委員会のほうで保護者のほうと直接面談をし、最終的に保護者のほうで了解が得られれば特別支援学級あるいは通級、それと場合によっては特別支援学校といったものにそれぞれ措置をしていくというような流れになっております。それと各小中学校の特別支援学級の状況でございます。まず白老小学校でございますが、まず知的が4名、それと肢体が1名、それと情緒が11名、それと言語が4名、それと弱視が1名の合計で21名、学級数が6学級という状況でございます。それと萩野小学校でございますが、知的が3名、肢体が1名、情緒が2名、それと言語が1名、弱視が1名の合計8名、5学級となっております。それと竹浦小学校でございますが、病弱が1名、情緒が1名、合計2名、学級数は2学級となっております。それと虎杖小学校でございますが、知的が1名、情緒が2名、言語1名の合計4名、学級数は3学級。それと白老中学校ですが、知的が6名、肢体が1名、病弱が1名、情緒が4名、言語が1名、合計13名、5学級となっております。それと白翔中学校ですが、知的が1名、情緒が1名、言語が1名、合計3名、学級数で申し上げますと3学級でございますが、合計でございますが小中学校合わせまして知的が15名、肢体が3名、病弱が2名、情緒が21名、言語が8名、弱視が2名、合計51名、学級数で申し上げますと24学級という状況となっております。

続きまして5ページをお開きください。学校図書館の設置及び利用状況についてということで、学校図書館法でいきますと各学校のほうに図書館の設置が義務づけられております。本町の場合、各学校には図書館が設置されておりますが、きょう行かれます虎杖小学校につきましては図書館、図書室というよりは、玄関を入りまして右手のほうに部屋ではないのですが図書コーナーというようなことでなっておりますが、そういったことで設置をしてございます。教育委員会といたしましては、学校司書を嘱託1名、臨時職員1名の2名を配置して、図書館の利用促進や授業における図書館の活用を図っておりますが、これ以外にも学校図書館に蔵書していない図書につきましては、町立図書館との連携によりましてペガサス便といったもので自分のいる学校にはなくてほかの学校にある、あるいは図書館のほうにある本をペガサス便ということで希望があればそういったもの取り寄せて本を読めるというような環境を整備しております。それと小中学校の図書館の蔵書冊数、それと貸し出し冊数の推移といったものは下のほうに記載しておりますが、まず学校図書館の蔵書冊数につきましては、それぞれ各小中学校記載のとおりでございます。それと合わせまして右側のほうに文部科学省で定める学級数に基づく標準冊数というのがございます。まず、その中で先だつての議会のほうでも答弁させていただきましたが、まず標準冊数に届いていない学校が小学

校でいきますと虎杖小学校、それと中学校の2校についてはそれぞれ標準冊数に届いていないという状況でございます。それと次に学校図書の人当たりの年間貸出冊数でございます。これにつきましては平成24年度から27年度までの貸し出し冊数というものを小学校、中学校別に記載をさせていただいておりますが、小学校平均でいきますと昨年度1人当たりの平均で申し上げますと38.7冊、中学校でいきますと1人当たり8.2冊ということで、これは学年が上がるに従いまして本の貸し出し数というのが減少傾向にあるというような状況でございます。それぞれやっぱり本を読む時間のほかに、学年が上がるにつれて、塾に通うですとか習い事ですとかやはり子供たちの本を読む時間というのがなかなかないのかなというようなことが背景にあるいうふうに捉えております。

続きまして6ページをお開き下さい。学力向上の取り組みについてでございます。本町では平成23年度から白老町スタンダードという右側でございますが、こういったものを策定して国語、算数の基礎学力の定着を図るとともに、学びの連続性を見据えた小中連結の取り組みを充実、それと子どもの学ぶ意欲や表現力、思考力や判断力を高めて、確かな学力を保障する取り組みを進めてきております。また、学力サポート事業というものがあまして、こちらのほうにつきましては学習支援員を白老小学校、それと萩野小学校のほうに1名ずつ配置をして、算数の授業を充実させてきているほか、グローバル化する社会に対応できる人材の育成を見通して、今年度より小学校低学年から英語に親しむ教育といったものを推進してきております。また平成19年度から実施しております「全国学力・学習状況調査」においては、実施年度によっては結果の平均点について上下はございますが、全国、全道平均と徐々に差が縮まってきておりまして、今後においてもさらなる学力向上のための施策が必要というふうに捉えております。大変雑駁ではございますが、資料のほうの説明を終了させていただきます。

○委員長（小西秀延君） ただいまご説明がありました。今、説明がありました部分につきましてご質問があります方はどうぞ。

西田委員。

○委員（西田祐子君） 説明の内容で1ページの教職員の状況なのですが、学校計のところがちよっと数字が合っていないのですよね。これちよっとあとで訂正してください。白老小学校、教諭が27、養護1、事務1になって学校計で31になっているけど33ではない。こういうふうな感じで次のところが17、それから一個空けて虎杖小学校が10、白老中学校が20、白翔中学校が16、たぶんそういうふうに数字が違っているのではないかなと思うのですが、あとで訂正していただければと。この数字がちよっとわからないのです。例えばそしたら竹浦小学校7足す11足す11は7と足していったら、これはどうも数字が合わない。

○委員長（小西秀延君） 藤澤主幹。

○学校教育課主幹（藤澤文一君） まず、ここの学校計のところは校長先生、教頭先生の方も含んでのお話で、竹浦小学校でいきますと校長先生1、教頭先生1、一般教諭7、これで9、養護の先生が入って10、事務官が入って11という計算になります。(2)というのは、これ期限付きの先生の内数ですので、合計です。

○委員長（小西秀延君） ほかがございますか。

吉田委員。

○委員（吉田和子君） 吉田です。もう時間もないので簡単に。教員数が出ておりますが、このうち町外から通っている教員は何人くらい割合どのくらいか、今わからなかったらあとでわかった時点でいいです。次に行くのに時間ないでしょ。だからあとでわかったら、今わかればあれですけども。わからなければあとで教えてください。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 予習を兼ねてお聞きしたいのですが、学級数と児童数の（２）の中で竹浦小学校が学級数５、虎杖小学校が４学級になって複式学級になっていると思うのですよね。これどういう形で学校経営されているのか、その辺ちょっとわかれば教えていただきたい。事前にちょっと予習していきたいと思います。

○委員長（小西秀延君） 岩本課長。

○学校教育課長（岩本寿彦君） まず竹浦小学校が３年生、４年生の複式です。虎杖小学校が３年生、４年生の複式、それと５年生、６年生の複式と。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） それはわかるのだけど、担任がちゃんとして、そして単学年の学習はどうして複式するときはどうだということでもありますよね。その辺どういうふうに、実際はこの竹浦なんて小学校３年生、２名しかいないですよね、複式学級やるのだけど、小学校３年生は現実どちらが主体になった学習になっているのですか。複式学級が主体になっているのか３年生なら３年生の授業ってあるよね。当然、担任もいるのでしょ。生徒数から見れば。担任経営、学習指導、というような形で具体的にやっているのか、ちょっと聞いておきたい。

○委員長（小西秀延君） 井内主幹。

○学校教育課指導主幹（井内宏磨君） 学校教育課井内でございます。複式学級の場合は基本的には担任の先生１人でございます。複式学級の場合は担任の先生は１人です。１人の先生が例えば国語の時間でいうと３年生の国語と４年生の国語を同時並行して指導してございます。同時並行にします。その指導方法については、わたりとかずらしとかといういろいろな専門的な指導方法があるのですが、それを駆使しながらやっているという状況です。社台小学校でも既にそういう実践経験は進めておりましたので、それを引き継ぎながら各学校工夫しながら行っているところでございます。以上でございます。

○委員長（小西秀延君） ほかがございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） それではここで担当課からの説明を終えまして移動し、現地調査ということに移りたいと思います。よろしくお願い致します。

---

○現地視察調査

（午後 ２時 10分）